

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	はなえみ学舎 さくら		
○保護者評価実施期間	令和7年 3月 4日	～	令和7年 3月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 6
○従業者評価実施期間	令和7年 3月 4日	～	令和7年 3月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 24日		

○分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<p><生活習慣・社会性の育成> 日常生活における基本的習慣の確立と、自立に向けた具体的なスキル習得の支援を実施しています。特に、整理整頓や時間管理、身辺自立に関する支援において、個々の発達段階に応じた適切な指導を行っています。また、生活技能の向上を目指した実践的な活動を通じて、自信と意欲を引き出す支援を展開しています。</p>	<p><生活習慣・社会性の育成> 々の活動の中で、掃除や整理整頓などの当番活動を通じて、責任感と達成感を育む機会を設けています。また、調理活動や創作活動を通じて、生活技能の向上と創造性の育成を図っています。特に、自己選択・自己決定の機会を意図的に設定し、主体性を育む支援を心がけています。</p>	<p><生活習慣・社会性の育成> より実践的な生活場面での支援の充実や、個々の課題に応じた具体的な目標設定の確立が必要です。また、家庭との連携をさらに強化し、日常生活での般化を促進する支援方法の開発も求められます。さらに、長期的な自立支援計画の策定と、定期的な評価・修正の仕組みづくりを進めていく必要があります。</p>
2	<p><学習・認知発達> 個々の学習ペースや特性に合わせた柔軟な支援を実施しており、集中力の維持や自主性を引き出す工夫が見られます。特に、数学や言語学習において、視覚的教材の活用や段階的な指導により、理解度の向上を図っています。また、学習意欲を高めるため、達成感を重視した声かけや、適切な休憩時間の設定など、きめ細かな配慮がなされています。</p>	<p><学習・認知発達> 個別の目標設定と振り返りを通じて、自己評価能力の育成を図っています。タイマーの使用や視覚的な教材を活用し、時間管理能力の向上を支援しています。また、言語発達支援においては、言語聴覚士との連携のもと、体系的な訓練プログラムを実施し、発音や語彙力の向上に取り組んでいます。</p>	<p><学習・認知発達> 意欲の持続と自己管理能力の向上のため、より具体的な目標設定と評価方法の確立が必要です。また、個々の興味関心を活かした教材開発や、ICTを活用した学習支援の充実も検討すべき課題です。さらに、家庭との連携を強化し、学習習慣の定着や目標の共有化を図ることで、より効果的な支援につなげていく必要があります。</p>
3	<p><社会性・コミュニケーション> 集団活動を通じた社会性の育成に力を入れており、特に仲間との関わりや感情表現の適切な方法について、実践的な支援を行っています。また、個々の特性に応じたコミュニケーション方法の指導や、感情コントロールの支援において、一貫した対応と丁寧な声かけを実施しています。</p>	<p><社会性・コミュニケーション> 日常的な活動の中で、自己表現や他者理解の機会を意図的に設定し、ソーシャルスキルトレーニング(SST)を実施しています。また、感情の言語化支援や、適切な距離感の保ち方など、具体的な場面での指導を重視しています。特に、成功体験を積み重ねることで、自信を持ってコミュニケーションが取れるよう配慮しています。</p>	<p><社会性・コミュニケーション> より多様な社会的場面での実践機会の提供や、段階的なコミュニケーションスキルの向上プログラムの確立が求められます。また、感情コントロールの技法についても、個々の特性に応じたより効果的な方法の開発と実践が必要です。さらに、保護者との連携を強化し、家庭でも実践できる具体的な支援方法の共有を進めていきます。</p>

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<p><個別支援と集団支援のバランス> 個別支援と集団支援の切り替えにおいて、一部の利用者が環境の変化に対応できず、感情的になってしまうケースが見られます。特に、新しい環境や集団活動への参加に不安を感じる利用者もおり、適応に時間がかかることがあります。また、複数の指示を同時に理解することが難しい利用者もいることから、集団活動での情報伝達に課題があります。</p>	<p><個別支援と集団支援のバランス> 利用者それぞれの発達段階や特性が異なることから、一律の支援方法では対応が難しい状況があります。また、個別支援から集団支援への移行のタイミングや方法が確立されておらず、職員間での対応にばらつきが生じることがあります。さらに、施設内での支援と学校や家庭での支援方針の違いにより、利用者が混乱してしまうケースも見られます。</p>	<p><個別支援と集団支援のバランス> 段階的な目標設定による成功体験の積み重ねを重視し、個々の利用者のペースに合わせた支援を行います。視覚的な手がかり(絵カード、チェックリスト)を活用し、活動の見通しを持ちやすくします。また、共同制作活動やグループ遊びなど、自然な交流が生まれる場面を設定し、社会性の向上を図ります。</p>
2	<p><感情コントロールと自己表現> 感情が高ぶった際の言葉遣いが荒くなる利用者が多く、友達関係への影響が懸念されています。また、「ごめんなさい」「もうしません」といった言葉での謝罪が形式的になりがちで、内面化が不十分な場合があります。</p>	<p><感情コントロールと自己表現> 集団生活での経験不足により、感情表現の方法が確立されていない利用者が多いことが要因として考えられます。また、完璧主義的な傾向や失敗への不安が強い利用者もおり、新しいことへの挑戦を躊躇する様子も見られます。</p>	<p><感情コントロールと自己表現> ソーシャルスキルトレーニングを通して、場面に応じた適切な言葉遣いや表現方法を学ぶ機会を提供します。感情カードを活用して自分や相手の気持ちを理解する練習を行い、適切なコミュニケーション方法の習得を支援します。</p>
3	<p><生活習慣の確立> 基本的な生活習慣(手洗いなど)の確立が不十分な利用者がいます。また、学習面での支援において、文章問題への取り組みや読み書きに課題を抱える利用者が多く見られます。</p>	<p><生活習慣の確立> 環境や習慣が十分に整っていない場合があり、施設での支援との連携が難しいことがあります。また、学習への苦手意識から、自信を失い、集中力の維持が困難になるケースも見られます。</p>	<p><生活習慣の確立> 宿題への取り組みを優先した生活リズムの確立を目指し、来所後の流れを視覚化します。また、友達と一緒に取り組める環境づくりや、達成感を味わえる支援の工夫を行います。さらに、家庭との密な連携を図り、送迎時の丁寧な情報共有を通じて、一貫した支援を提供します。</p>